

国土を守るの 地域建設業の 挑戦

第7回建設トップランナーフォーラムより

全6回の4

第2部は「地方再生目指し
複業に挑戦するトップランナ
ー」と題して、岐阜県、島根
県、北海道の3企業が新しい
取り組みについて事例発表し
た。

「理想の道をつくることで
日本の森林整備を進めたい」
と語るたかやま林業・建設業
協同組合の長瀬雅彦専務理事
が林建協働の取り組みを紹介
した。工程・安全管理など、
建設業の強みが事業推進に生
かされているという。

全国屈指の森林地域・飛騨
高山。2010年の組合設立



長瀬雅彦氏

複業に挑戦する トップランナー

以降、規模やエリア、難易度
に応じて作業道開設などを組
合員が担っている。
路網整備や団地集約化のた

中でも安全管理は、3年間無
災害を達成するなど確かな成
果を挙げている。

一方で、「なかなか覚えら
れないのは造材」。木の切り方
が商品価値を左右するため、
技術の習得は課題の一つだ。
このほか、「森林のことをし
っかりと話せる」技術者の育
成を事業継続のポイントとし



吉崎博章氏

機感を覚え、地元の農水産物
を活用した新たな動きに踏み
切った。
2007年に隠岐スモール

て挙げた。

「島内の活性化は、第1次
産業である農業・漁業が衰退
しては成り立たない」。島根
県隠岐の島で総合建設業を手
掛ける吉崎工務店の吉崎博章
社長は、ピーク時の2〜3割
にまで激減した公共事業に危

ビジネス協議会(現会員数65
社)を設立し、県や町、生産
者協議会と連携しながら事業
を推進。隠岐牛や生しいたげ、
イワガキなどの定番商品を原
の認証制度を通じてブランド
化し、島の玄関口に直売所を
設けて安定供給している。
「首都圏」でも通用する商品

林建協働に生かす工程・安全管理

をキーワードに新商品の開発
も進め、県外での売り込みに
力を注いだ。

「島内を活性化するには、
より多くの『外貨』を獲得し
ていくことが不可欠」と吉崎
社長。今後必要なのは、公設
民営型の加工施設を整備する
など、地場産業の6次産業化に
向けた道筋づくりだ。



梶村佑規氏

梶村建設(北海道)は、ビ
ニールハウス栽培のアスパラ
ガス生産に取り組む。本来の
旬期から収穫期をずらし、大
学との共同研究で食味や栄養
の付加価値を高めるブランド

化に成功した。地域の雇用も
伸び、梶村佑規副社長は「大
きな目的の一つを果たした」
と話した。

同社がある新ひだか町は、
畑作の休耕地対策としてハウ
ス栽培を奨励している。同社
は2005年に花弁(かき)
などを含むハウス80棟を建設
し農業経営を始めた。

主力のグリーンアスパラや
ホワイトアスパラ、紫アスパ
ラなど6品種を39棟で栽培
し、出荷調整しながら独自の
販路でホテルやレストランな
どに卸している。
梶村副社長は「高品質栽培
のノウハウを生産者に提供す
るクラスター化を推進し、地
域密着型を進めたい」と語る。
(「地方建設記者の会」取材
班)